

たましんレポート2015 用語解説集

たましんレポート2015をよりわかりやすくお読みいただくため、用語の解説を記載いたしました。

あ行

1 インキュベーション施設

新たなビジネスを始めようとしている人や企業に対し、不足する資源(資金、オフィス、ソフトなど)を提供し、その成長を促進するための施設のこと。施設の入居には一定の審査が必要な場合もありますが、安価な家賃で使用できることや、金融相談・技術相談・経営相談等の各種支援施策を受けることができます。

→ p. 32

2 インフラ(インフラストラクチャー)

「下支えする」「構造」を指す観念的な用語で、社会の発展や経済の成長に寄与する基盤のこと。狭義では交通、通信、電力、水道、公共施設など、社会や産業の基盤として整備される施設のことを指します。

→ p. 3、4、5、6、11、12、34

3 ALM (Asset Liability Management)

資産と負債を総合的に管理すること。金融機関においては、全ての預金や貸出の金利・期間を把握し、将来の金利の変動を予測のうえ、リスクの最小化と収益の極大化を図るリスク管理の手法のこと。

→ p. 29

4 オペレーショナル・リスク

不適切な事務やシステムのトラブル等の要因により損失を被るリスクのこと。オペレーショナル・リスクには事務リスク、システムリスク、その他のリスクが含まれます。

→ p. 24、29

か行

5 貸倒引当金

債権(融資金など)が回収できない場合に備え、各期の利益から債権の額に応じて積み立てておく金額のこと。貸倒引当金には一般貸倒引当金と個別貸倒引当金の2種類があります。

→ p. 23、25

6 危険債権

債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態および経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収および利息の受取りができない可能性の高い債権のこと。

→ p. 25

7 業務純益

金融機関の基本的な業務の成果を示す金融機関固有の利益指標であり、信用金庫法に基づく報告書様式(決算速報)によって算出したものです。具体的には、「業務粗利益」から、業務遂行に必要とされる費用、つまり「一般貸倒引当金繰入額」と「経費(除く臨時経費)」を控除したものです。また、この「業務純益」は、有価証券の含み益等と同様に、貸倒発生の際の償却能力を判断する基準ともなります。

→ p. 23

8 コア業務純益

業務純益+一般貸倒引当金繰入額-国債等債券損益で算出され、金庫本来の事業活動での利益を把握するものです。

→ p. 23

9 コア資本

自己資本比率計算上の自己資本の額のこと。普通出資、優先出資、内部留保等の合計を指します。

→ p. 24

市場リスク

金利、有価証券価格、為替など市場で取引される商品の価格変動により、資産・負債の価値が変動し損失を被るリスク、および収益が変動し損失を被るリスクのこと。

→ p. 24、29

コミュニティ・ビジネス

地域の課題を地域住民が中心となって、ビジネスの手法を用いて解決する取り組みのこと。
組織形態はNPO法人が多いが、個人、会社組織や組合組織など多様であり、活動分野も「まちづくり、環境、介護福祉」などあらゆる分野に広がりを見せています。

→ p. 3、17、18

システムリスク

コンピュータシステムの障害による停止または誤作動により損失を被るリスクのこと。

→ p. 29

コンプライアンス

社会規範の遵守や法令遵守のほか、業界団体のルール、金庫内の規程等の諸ルールに従い、厳正に遵守すること。

→ p. 5、27、30

事務リスク

役職員が正確な事務処理を怠る、あるいは事故・不正等を起こすことにより損失を被るリスクのこと。

→ p. 29

さ行

事業承継

会社(事業)を現在の経営者から他の人(後継者)へ事業の引継ぎを行うこと。これまで経営者として保有・管理してきた様々なものを後継者へ譲り渡すこと。現在の経営者が自分の子どもに後を継がせる「親族承継」が一般的でしたが、最近では従業員や社外の後継者など第三者への承継やM&Aの活用も行われています。
円滑に承継をするためには後継者の教育や株式の譲渡を行うことや、相続財産の評価などの相続対策などが必要です。

→ p. 2、5、9、12、22、27

循環型社会

環境への負荷を減らすために、自然界から採取する資源をできるだけ抑制し、効率的に利用することによって、廃棄されるものを最小限に抑える社会のこと。

→ p. 20

た行

信用リスク

与信先や信用供与先(発行体等)の財務状況の悪化等により、資産(オフ・バランス資産を含む)の価値が減少あるいは消滅し、金融機関が損失を被るリスクのこと。

→ p. 24、29

信用リスク・アセット

信用リスクを有する資産を、リスクの大きさに応じて一定の掛け目を乗じて、再評価した資産金額のこと。

→ p. 24

正常債権

債務者の財政状態および経営成績に特に問題がない債権であり、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」、「要管理債権」以外の債権のこと。

→ p. 25

その他のオペレーショナル・リスク

評判の悪化や風説の流布などにより損失が発生する風評リスク、お客さまに対する義務違反や不適切な取引などから損害が発生する法務リスク、災害などにより有形資産に毀損・損害が発生する有形資産リスク、規律違反・不祥事件、人事運営上の不公平・不公正やハラスメント等の差別的行為、就業環境の悪化などにより発生する人的リスクの4つをさします。

→ p. 29

多摩ブルー・グリーン賞

多摩地域の中小企業の活性化と地域経済の振興に寄与することを目的に、優れた技術やビジネスモデルを表彰するたましんの取り組み。技術・製品を評価する「技術・製品部門(多摩ブルー賞)」と新しいビジネスモデルを評価する「経営部門(多摩グリーン賞)」の2部門から構成されています。

→ p. 10

地方創生

国内の各地域・地方がそれぞれの特徴を生かし、自律的で持続的な社会を形成すること。また、魅力あふれる地方のあり方を築くこと。

→ p. 17

TTMLレート

お客さまが金融機関で外貨を売買する際の基準となるレートのこと。
たましんでは米ドル・ユーロについては、毎日10時頃にこのレートを決定しています。

→ p. 21

統合的リスク管理

各リスクを種類ごとに評価し、それを総体的に捉えたものと自己資本を対比することにより、健全性、収益性、効率性を評価する、自己管理型のリスク管理のこと。
たましんでは、信用リスク、市場リスク、流動性リスク、オペレーショナル・リスク(事務リスク、システム・リスク等)を統合的リスク管理の対象としています。

→ p. 24

は行

破産更生債権及びこれらに準ずる債権

破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権およびこれらに準ずる債権のこと。

→ p. 25

評価益

株式などの有価証券が、買ったときの価格(簿価)から値上がりして、現在の価格(時価)の方が高くなっているときのその差額のこと。
反対に買ったときの価格(簿価)より現在の価格(時価)が低くなっているときの差額は評価損といいます。

→ p. 26

ポートフォリオ

多種類の銘柄や金融商品の組み合わせのこと。
一般的に、資産運用において、ポートフォリオは運用資産(保有資産)の構成状況(組み合わせ)のことを意味し、その中身は預貯金、株式、債券、投資信託、REIT、外貨預金、外国株式、金など実に様々なもので構成されています。
ポートフォリオにおいては、全体の収益性(リターン)や換金性(流動性)を考慮して、金融商品をいかにうまく組み合わせるかが重要であるといえます。

→ p. 26

ま行

モニタリング

事業の進捗状況を把握するため、観測や測定を行うこと。

→ p. 11、24

ら行

リスク・アセット

金融機関が抱えるリスク資産(有価証券や外国為替、貸出金など)にリスクの大きさに応じた掛け目を乗じたもの。

→ p. 24

流動性リスク

市場の混乱により必要資金が確保できない場合や、通常より著しく高い金利での資金調達を余儀なくされるリスクのこと。

→ p. 29